

# 「ガイドラインに沿った 口腔ケア標準化への挑戦！」

## なぜいまクリティカルケア領域で口腔ケア 運用の見直しが必要なのか？

クリティカルケア領域では、患者さんの重症度と比例し、人工呼吸器装着中の患者さんの割合も多いのが特徴です。近年では、適切な口腔ケアを患者さんに提供することは、VAP(人工呼吸器関連肺炎)予防の観点からのみではなく、ICU-ASD(ICU acquired Swallowing Disorders:集中治療後嚥下障害)や、オーラルフレイル予防など、長期的な患者さんのQOLにつながると報告されています。

2021年には、日本クリティカルケア看護学会から、「気管挿管患者の口腔ケア実践ガイド」が発表されました。ガイドライン上では、従来推奨されていたブラッシングケアに加え、維持ケアの重要性が明記され、確実な手技・回数で口腔ケアを行うことが重要視されています。

しかし、実際の臨床現場では、ガイドラインに沿ったケアの定着を目指しても、「忙しくて続かない」「人によってケア方法が違う」などと困った経験をしたことはないでしょうか？当院ICU・HCUでも、数年前までは各勤務のブラッシングケアが口腔ケアの主体でしたが、発表された口腔ケア実践ガイドに沿って、口腔ケアの方法を見直すことになりました。

本センターでは、業務が繁忙な背景などから、口腔ケアが後回しにされていたり、自身の経験に基づいたケア方法が主体となっていたりするケースが多くみられていました。推奨されているガイドラインに沿ったケア方法とタイミングで口腔ケアを行うためには、正しい知識や手技を普及することだけでなく、現場環境に合わせた

工夫が必要です。今回は、当院ICU・HCUがどのようなプロセスを踏み、ガイドラインに基づいた口腔ケアの導入に至ったかを紹介します。

## ガイドラインを現場に導入するために行った

### 4つの工夫

- ① **ガイドライン紹介**(ガイドに基づいたケア方法の啓蒙)
- ② **口腔ケアマニュアルの整備**
  - ・ケア手順の標準化、ROAGに応じたケア頻度調整
  - ・使用物品の取り決め など
- ③ **口腔ケア手技動画の作成**
- ④ **継続した口腔内環境、VAP発生率のモニタリングとフィードバック**

現在どのようなケア方法が推奨されているかを理解してもらい、正しい知識・手技の習得を目指し、ガイドラインの紹介とガイドラインの内容に沿うようにマニュアルの整備を行いました。また、口腔ケアの手技動画は、勤務の空き時間などに視聴できるよう10分程度の内容で作成し、マニュアルと併せて視聴してもらうことで、スタッフに対し正しいケア内容の理解・手技の統一化につながったと感じています。

# 「ガイドラインに沿った 口腔ケア標準化への挑戦！」

## 当院の口腔ケアの頻度、スケジュールの実際 (一例)

発表されたガイドラインでは、1日1~2回のブラッシングケアに加え、3~4回の維持ケアを実施することが推奨されています。当院ICU・HCUでも、1回/日のブラッシングケア+維持ケア3回/日のスケジュールを基本とし、業務内容に合わせ、ケアの時間調整を行いました。

### ■当院のスケジュール例



また、ガイドラインでは、ケア時に口腔アセスメントツールを使用した評価を行うことが推奨されており、当院ICU・HCUではROAG(Revised Oral Assessment Guide)を用いて口腔内環境の評価を行っています。カンファレンス場面などでは、主観的評価ではなく、スコアを用いた客観的評価を行うことで、ケアの頻度・内容を変更していくように体制を整えました。

看護職はケアの変更など、変化を嫌う傾向にあります。ガイドラインに沿ったケアを定着化させるには、ケア方法の変更を提案するのみではなく、自分たちが行っているケアが患者さんにとって効果的か、つまりVAP発生率の変化や口腔内環境の悪化がないかを、継続したモニタリングを行いながらスタッフへフィードバックすることも重要です。

## ROAGを用いた口腔ケア評価と頻度調整のしくみ

ケア/ROAGスコア	6~8点	9~12点	13点~
ブラッシングケア	1回/日	1回/日	2回/日
維持ケア	3回/日	4回/日	4回/日

当院のROAG とケア頻度の一例

## ガイドラインを知識で終わらせないために

口腔ケアは日常的なケアである一方、その質は患者さんのその人らしさ、尊厳、QOLに大きく影響します。ガイドラインの内容を知っている、で終わらすのではなく、継続して実践できる形で落とし込む工夫を行うことが、質の高いケアにつながるのではないのでしょうか。

### 参考文献

- 1) 日本クリティカルケア看護学会.気管挿管患者の口腔ケア実践ガイド: [https://jaccn.jp/assets/file/guide/OralCareGuide\\_202102.pdf](https://jaccn.jp/assets/file/guide/OralCareGuide_202102.pdf) (2026年2月28日閲覧)
- 2) 岸本裕充,梅田正博.ICUにおける口腔ケア-わが国のエビデンス構築をめざして-.口腔保健協会.2021.7.1(第一版)



クリティカルケア認定看護師  
日本赤十字社 和歌山医療センター  
係長  
**川口 千尋 氏**

2013年3月、和歌山市医師会看護専門学校卒業後、同年4月、日本赤十字社和歌山医療センターに入職し、ICU・HCU病棟に配属される。  
2021年クリティカルケア認定看護師(B過程)教育課程を修了。4区分14行為の特定行為研修を修了し、現在はICUに所属しながら、RRS、RSTなどの活動も高い組織横断的に活動を行う。

